

タイトルラベル

線に沿って切り抜いて使用します。フロントジャケット用なので上質紙に印刷すると良いでしょう。

鹿音院 I

首都圏の釣掛電車 1986 ①

収録区間	車両	収録時間
西武鉄道 多摩湖線 国分寺～萩山	クモハ351系	10:01
東京急行電鉄 池上線 五反田～石川台	デハ3000系	12:22
日本国有鉄道 鶴見線 鶴見～大川	クモハ12053	16:18
帝都高速度交通営団 銀座線 赤坂見附～渋谷	モハ1717	10:14

© 2002 大馬山 鹿音院

鹿音院 I



鹿音院レコード

折込コンテンツ

ケース折込用の解説。普通紙で十分です。

1. 西武鉄道 多摩湖線 国分寺 — 萩山間

国分寺駅6番線で出発を待つ 赤色塗装の 351 系。この日は野球開催日で、観客輸送用の準急として西武遊園地まで足を伸ばした。とはいえ、車内は休日のお昼前である。車窓からのんびりした光が差し込んでいた。

351 系の引退のきっかけは、1990 年に完成したホーム移設工事である。これにより 20m 級冷房車の入線が可能になり、西武最後の赤電は姿を消す事になった。収録はその4年前である。路線にはロングレール区間も残り、一昔前の近郊ローカル線の風情が感じられる。

2. 東京急行電鉄 池上線 五反田 — 石川台間

夕方の混み合う時間に収録した。始発の五反田から空席は無く、大勢の話し声を乗せた列車は曇り空の下を淡々と進んでいく。戸越銀座から旗の台の区間は鉄橋を走るような音がするが、これは 1990 年に完成する地下化工事の仮設路盤を走行する為である。

歌謡曲にも歌われた池上線の旧型電車は全て 1989 年に引退。以降も地下化やワンマン化など、音風景の変化は著しい。

3. 日本国有鉄道 鶴見線 鶴見 — 大川間

鶴見から大川へ直通するクモハ 12053 の音風景である。工場地帯を行く印象が強い鶴見線であるが、鶴見小野あたりまでは近郊路線の性格も持つ。乗客の話し声から、列車の進行に従って客層が変わっていく様子がわかる。

収録当時大川支線への分岐駅は武蔵白石であった。列車は一旦本線の下りホームに入って降車客を扱い、進行方向を二度変えて大川支線ホームに再び入線する。(12'30)。これは大川支線が上り本線から分岐している為で、下りの大川直通列車のみに見られたスイッチバックである。この収録では右側のチャンネルが進行方向になっている。ヘッドフォンで再生すると運転士が木の床を踏んで移動する様子や列車のスピード感がわかる。

4. 帝都高速度交通営団 銀座線 赤坂見附 — 渋谷間

昭和後期、銀座線には釣掛駆動とカルダン駆動を混結する編成があった。収録した列車も釣掛駆動のモハ 1717 とカルダン車が混結されている。音声は列車が赤坂見附に到着する場面から始まる。片開きの扉が閉まり同駅を発車すると、青山一丁目にかけて 33% の長い登坂に入る。この収録では一分半近く力行運転のサウンドを聴く事が出来る。

銀座線の釣掛電車は1986年の秋に全廃となった。収録は同年の夏で、旧型電車にとっては最晩年である。途中ですれ違う列車の音は、全て山吹色のカルダン駆動車。この音も今では懐かしい記録となった。

ホトムラベル

標準Pケースを使用する場合のバックインレイ用です。内折でも外折でも好きなように使ってください。

鹿音院レコード

鹿音院レコード

鹿音院 I

首都圏の釣掛電車 1986 ①

収録区間	車両	収録時間
西武鉄道 多摩湖線 国分寺～萩山	クモハ351系	10:01
東京急行電鉄 池上線 五反田～石川台	デハ3000系	12:22
日本国有鉄道 鶴見線 鶴見～大川	クモハ 2053	16:18
帝都高速度交通営団 銀座線 赤坂見附～渋谷	モハ 717	10:14

鹿音院レコード